

VOICE みんなの声 市民の声

VOICE みんなの声

10月初めに、この様なお手紙を市長あてにいただきました。しかし、匿名のため返事を差し上げることができませんでした。

この様な悩みや不安などを持つている子育て中のお母さんやお父さんのために、市の相談窓口について紹介します。気軽にご相談ください。

### ●子育て支援センター

市内には3カ所あります。保育園などに入園していない親子が、遊びを通して「親子のふれあい」「親の仲間づくり」「子育ての情報交換」などをする場所です。

また、子育ての相談なども行っています。

子育てしているとイララが溜まり、つい子どもに当たつてしまします。

外国では、子育てに疲れた母親が、気軽にふらつと立ち寄れる公式な場所があるそうです。数時間、子どもの面倒を見ててくれて、母親の気持ちの整理をつけることができるそうです。

私には、逃げ場所もなく子連れで気軽にいられる場所もありません。

市長へのたよりから  
「子育て駆け込み寺」のよう

### 市内の子育て支援センター一覧

名 称	場 所	開催日時	電話番号
かやま保育園	嘉山1	毎週水・金・土 午前9時30分～11時	387-5585
木崎保育園	横 井	毎週火～土 午前9時30分 ～11時30分	386-3155
こまくさ 保育園	柳原3	毎週月～金 午前9時30分～11時	387-2178

## 學校探訪⑧ 「筍山小學校」



## 笠山の地域に根ざした農業体験学習

## 梨作りを通して

4年生の保護者で要件に沿ってい  
る人にゲストティチヤーになつていい  
ただいています。

このように、梨作りだけでなく、  
野菜、米作りなどでも地域の人材を  
活用して農業体験学習を推進してい  
ます。この学習を通して自分の住む  
地域にますます関心を高めて欲しい  
ものと考えています。

⑥9月下旬～10月：收穫  
最後に、子どもたちが話し合つて実行しなければならない場面になります。収穫した梨をどうするかです。食べたり、分けたりするほかに「道の駅」や「わくわく広場」で販売するなど、外部にも目を向け発信するまでになりました。

児童数108人 教職員数11人  
そして、PTAの家庭数81世帯、さらには、笛山、横土居、浦ノ入の三地区約500世帯数がバックに控えている笛山小学校。創立110周年を過ぎました。その笛山の地域の特色を生かした学校づくりの一端を紹介します。

まず、学校のプールの横に学校畠と学校園があり、5分ほど歩くと3アルほどの学校田が見えてきます。1年生から3年生は、畑で野菜栽培。4年生は、梨畑で梨作り。5年生は学校田で米作り。6年生と飼育栽培委員会は菊作りと農業体験学習に取り組んでいます。

この中で、笛山の特色を生かし、ほかの学校では出来ないと思われる梨作りについて述べてみたいと思います。

梨作りカレンダー（4年生作成）

をめくつてみると、

①4月上旬：枝のせん定 はさみやノコギりで下向きの枝を切る。

②4月下旬：花粉付け

③5月下旬：玉すぐり、梨の玉と玉の間は20センチくらいにする。

④7月上旬：袋かけ、梨の実を袋に入れて口をすぼめてふさいでいく。

⑤7月下旬：網かけ、ムク鳥が梨の実を食べないように二重の網をかける。

冬限定渡り鳥 「マガソ」



レンジャーの観察日記

このコーナーは、ビューフ島潟とNPO法人「ねっとわーく福島潟」で担当しています。

今年も福島潟にオオヒシクイがやってきました。ロシアのカムチャツカ半島から2、400キロを旅しての飛来です。昨年より5日遅い到着となりましたが、寒さとともに徐々にその数は増えています。福島潟は、日本最大のオオヒシクイ越冬地であるとともに、多くの渡り鳥がやつてきます。特にこの時期、オオヒシクイにまじって少し小型のマガソをよく見ることができます。マガソは、オオヒシクイと同じ雁（がん）の仲間で、国の天然記念物に指定されています。潟中央カメラで観察すると、渡ってきたばかりのマガソは長旅の疲れをとるために、片足立ちで眠っている姿やえさを食べている姿をみることができます。野生の鳥がどんな行動をしているか、どんなに観察しても飽きることがありません。鳴き声は、「ガハハンガハハン」というオオヒシクイの声に比べて少し甲高

オレンジ色のくちばしでその付け根が白色、お腹に黒い横高があるのが特徴です。

い声で「キヤハハンキヤハハン」と鳴きながら飛ぶので、鳴き声でも区別することができます。オオヒシクイやマガントリが鳴き交わして飛翔（ひしよう）する姿を見に、福島潟へ遊びに来てください。オオヒシクイの鳴き声は、日本の音風景百選にも選ばれている冬の風物詩です。音で冬を感じるというのもなかなか良いものですよ。

3月には4万人を超えるました。掲載した写真は、昭和52年に東急土地開発株式会社などが出しました、「東急豊栄ニュータウン」の土地分譲の広告です。新聞の折り込みチラシ広告には、年号が書かれていることはほとんどなく、作られた年代がわからることは珍しいことです。これは、「新々バイパス開通記念」の文字から、時期を知ることができました。

東急土地開発は、昭和48年から事業を開始しました。法花鳥屋と嘉山の水田を埋め立てて、約21万7千m<sup>2</sup>（葛塚東小学校建設予定地を含む）を造成しました。その宅地には、のちに法花鳥園（現在の東急東横線法花鳥園駅付近）が開園するなど、多くの開拓事業を行なったのです。

また、宅地開発とともに街路樹も整備されました。水分の多い土壤で育つ、豊栄の気候風土にあつた樹種で、新潟の田園調布（高級住宅地）を目指し、住宅地との融合性、完成時の美観などを考え、メタセコイアに決まりました。正面から見えた場合に一直線状に見えるよう植栽の位置が決められたそうです。この並木は、平成6年に読売新聞創刊120周年記念企画「新・街路樹百景」に選ばれています。

（博物館 曽部）

博物館通信⑳ 新しい住宅地



工滝・築山のある「しらかば公園」、③完全な排水施設、④美しい街路樹が整備され、約500世帯が住める魅力的な住宅地となりました。